

# テレビ会議システムを用いた大学生と小学生の遠隔交流授業 ”チャットの危険性”についての遠隔交流授業

長谷川元洋<sup>1</sup>、神田敬三<sup>2</sup>、岡本拓子<sup>3</sup>、大谷尚<sup>4</sup>  
金城学院大学<sup>1</sup>、久米町立中正小学校<sup>2</sup>、高崎健康福祉大学<sup>3</sup>、名古屋大学大学院<sup>4</sup>

## 1. はじめに

長谷川が担当する「情報科教育法」の中で、学生に学習指導案を書かせたり、模擬授業を実施したりしていたが、大半の学生は、生徒の反応を予測した授業を構想することができるようにならなかった。短期間の教育実習で、効果的に教育技術の習得をするためには、教育実習に入るまでに、すぐに授業実施可能な授業案を考える力を養っておくことが重要であると考えている。

そこで、インターネットを使って、実際の授業を遠隔から、経験する機会を作り、その準備に取り組みせることで、授業を考える力を養おうと考えた。

本稿では、テレビ会議システムを使用し、実施した、大学生と小学生の遠隔交流授業を報告する。なお、紙面の都合により、概略のみ報告する。授業の様子、授業後の学生、小学校児童の感想等、詳細については、会場にて、ビデオ映像を交えて紹介する予定である。

## 2. 本実践の目的

(大学生) 児童、生徒の反応を予測しながら、授業を構想する力、また、その構想により、授業を実施するために必要となる準備作業等について学ぶことを目的とする。

(小学生) 掲示板、チャットの使用を通じ、ネット上のコミュニケーションの特性を危険性を含めて知る。また、それにより、どのような点に注意をしながら利用する必要があるのかについても学ぶ。

## 3. 実践環境

### (1) 対象授業

2003年12月9日(火) 午前9時10分から10時40分

情報教育論 金城学院大学(愛知県内) 2年生対象 6名(内1名は科目等履修生)

総合的な学習の時間 久米町立中正小学校(岡山県内) 6年生対象 16名(単学級)

### (2) 教員側の構成

大学側 長谷川、岡本、大谷

小学校側 池上(担任)、溝口(情報教育担当)、神田(特別非常勤講師)

### (3) 授業のテーマと学習目標

テーマ: チャットの危険性と上手な使い方

目的: (大学生) 実際に小学生に授業を行う経験を通じ、児童の反応を予測しながら、授業を構想、設計する力を養う

(小学生) チャットの使用体験を通じ、危険性を含めた特性を知る。

### (3) 協力校の児童の様子

- ・学校におけるPC利用はそれほど活発ではなく、本実践の開始時点では、キーボード入力に拒否反応を示す児童も1名いた。
- ・本実践まで、チャットを利用した経験は無かった。

### (4) 授業で使用したツール

(大学側)

- ・PCカメラを接続したPC1台
- ・チャットボードへの書き込み用PC2台
- ・ビデオカメラ2台(授業記録用)

(小学校側)

- ・PCカメラを接続したPC2台(1台はPCルーム、もう1台はネット上で、大学生

になりすましていた大学教員が校長室にて使用)

- ・チャットボードへの書き込み用PC 児童1人1台ずつ
- ・ビデオカメラ1台(授業記録用)
- ・普通教室にPC4台(遠隔授業前の交流用に、休憩時間等に使用)

(交流用ツール)

\*テレビ会議システムは、Yahoo!メッセンジャーを利用

\*授業用チャットボード、交流用掲示板、授業者間相談用メーリングリスト、研究者間相談用メーリングリスト、資料提出用添付ファイル機能付き電子掲示板

#### 4. 授業の実際

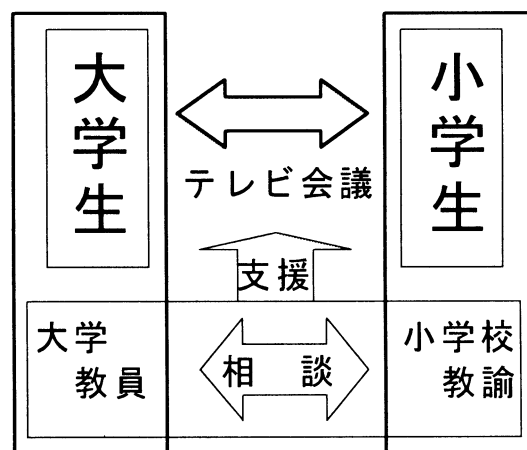
##### (1) 授業実施までの掲示板を用いた交流

テレビ会議による遠隔交流学习の前に、11月20日から12月8日の期間、掲示板上で、小学生と大学生の間でニックネームを用いた自己紹介等を行わせた。小学生の掲示板への書き込みは、学校からのみとし、家庭からの書き込みは行わないよう指導した。大学生には、メーリングリストで大学教員から、書き込みの指示を出し、各自が空いている時間にメッセージを書き込ませた。

また、小学校側では、この交流学习の期間に限定して、教室に4台のPCを設置し、休憩時間中に児童は自由に掲示板に書き込みができるような環境を整えた。

掲示板での交流は自己紹介に始まり、好きなスポーツなど、特にテーマを決めずに、掲示板上での交流を行った。遠隔授業において、ネット上では容易になりすましができることを教える内容の一つにしていたため、大学教員(岡本)が金城学院大学の学生になりすまし、また、女子学生1名が男性になりすまして、小学生とのネット上での会話に参加した。

遠隔授業実施まで、教員側で大学生と小学生の交流を支援する体制を作り、また、遠隔授業の授業案についても、大学生を教員側で支援する形をとった。大学生への支援は、主として、メーリングリストを用いた。



交流学习	授業者側の準備
11/14 大学生掲示板上に自己紹介	随時、メーリングリストで相談
11/20 小学生、掲示板の使い方等の授業	11/26 リハーサル、機器調整等
11/21 小学生毛辞意版への書き込み開始	11/28 大学生、授業についての相談
12/8 小学生と長谷川の顔合わせ(テレビ会議の練習)	12/1 指導案第一案完成
12/9 遠隔授業実施	12/5 テレビ会議システムを使って、指導案についての相談(岡本、大学生、長谷川)

##### (2) 遠隔授業の概要

まず、チャットボードを使って、小学生と大学生の間で会話を行い、その後、チャットボードの特性や危険性について、小学生に考えさせた。大学生側はどのニックネームは誰であったかを小学生に明かし、性別をごまかすことも簡単にできることを実際に示した。また、大学生になりすましていた岡本が、遠隔授業当日、校長室に待機し、授業の途中で、教室に現れる場面を設定した。遠くの人と交流をしているつもりが、実は、近くの人と交流をしており、また、その相手が突然自分の前に現れるケースがあることを実際に体験させた。